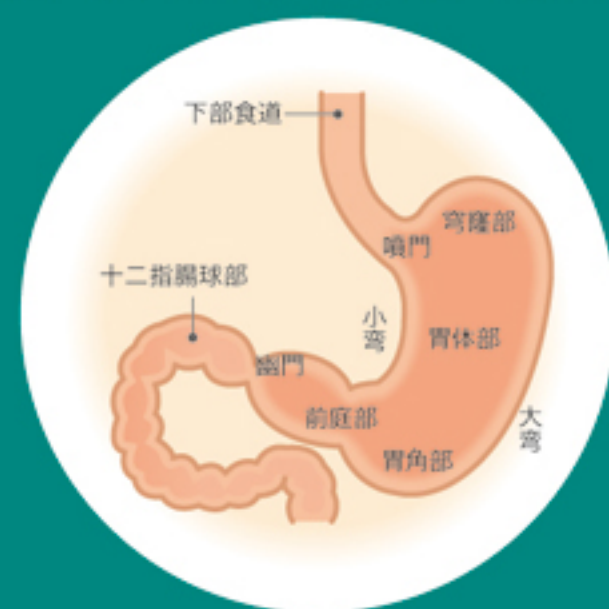


# 胃がん 検診



日本で一番多い胃がん、特に男性の50～60歳に多くなっています！  
早く見つけると完治する率が高く、  
内視鏡で治療できる可能性もあります！

## 40歳以上の方は、年1回検診を受けましょう！

### 一次検診 (スクリーニング検査)

#### 問診

既往歴や自覚症状などをおたずねします。

#### 胃X線間接撮影

バリウム(白い液状の造影剤)と発泡剤(胃を膨らませる薬)を飲んで検査をします。検査台にのり、体の向きをかえ色々な角度で撮影します。

### 二次検診 (精密検査)

#### 胃内視鏡検査

口から内視鏡を入れて、胃の中を直接見て調べる検査です。潰瘍やポリープはもちろんのこと、胃がんについては内視鏡治療が可能な小さながんまで発見することができます。また、病変部の粘膜を採って、悪性の組織がまじっていないか調べることもできます(生検:組織診断法)。

### こんな症状にご注意

なんとなく胃が重い、みぞおちが痛い、  
不快感がある、胸やけがする、  
食欲がない、体重が減ったなど  
★ただし、胃がんの特有の症状はありません。

バリウムも粘りが減り、  
胃内視鏡も細くなって  
飲み込みやすくなって  
います！



### 胃がん検診Q&A

**Q** 症状がないのですが、毎年バリウムを飲まないといけませんか？

**A** 胃がん検診は、胃がんの早期発見が目的です。胃がんはいつ発生するか予測できません。早期に発見するためには定期的な検診が必要です。毎年バリウムを飲むと、それだけ早期に発見される可能性が高まりますので、毎年検診を受けましょう。また、胃がんの中には、少ないですが急速に進行するがんもあります。検診で、異常なしとの判定でも、症状ができれば、医療機関を受診しましょう。

**Q** 胃X線撮影よりも内視鏡検査を受けるほうがいいのですか？

**A** 胃X線撮影に比べて内視鏡検査の大きな利点は、病変の一部を採って顕微鏡で診断(組織診断法)ができることです。胃中の病変が、がんかどうかは最終的にこの組織検査で診断します。胃X線撮影で毎年要精密検査と判定される人は、内視鏡検査を受けたほうがよいでしょう。しかし内視鏡検査は、検査の受診者負担や検査時間などがかかるため、胃X線撮影を選択することもあります。